

講演会

「生命尊重の教育と学校飼育動物の役割
～豊かな心を育むために～」

「学校教育と体験学習」

講師：日置 光久 先生

(文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官)

「命の実感を与え、豊かな感性を培う飼育」

講師：中川 美穂子 先生

(お茶の水女子大学こども発育教育センター客員研究員・

学校飼育動物研究会代表発起人・獣医師)

平成16年8月25日(水) 午後1時～4時

福岡リーセントホテル「レインボーホール」

主催：社団法人 福岡県獣医師会

共催：福岡県教育委員会

関係各位

社団法人福岡県獣医師会は、平成14年11月13日の理事会に於いて、「学校飼育動物専門委員会」の必要性が議題にあがり承認されて、この委員会が発足しました。

当委員会は平成15年に会員対象のアンケート調査を行い、その結果に基づき何度も審議を重ねてまいりましたが、獣医師会だけの検討や勉強会では、この「学校飼育動物」という大きな問題の解決は難しいと判断しました。そこで社団法人福岡県獣医師会の主催で、教職員を主として一般市民にも呼びかけての講演会を開くことを提案しましたところ、平成16年5月29日の本会総会で可決承認を得ましたので、早速、福岡県教育委員会と協議をもちました。そのことから福岡県教育委員会からも共催を申し出られて、「教職員の研修会」としてこの講演会が実現しました。この事実に基づき、福岡県保健福祉部生活衛生課も参加を決めていただき、「平成16年度第1回動物愛護推進員研修会」が合同で開催されることに成りました。

以上の経緯のとおり急な企画ではありましたが、各方面の速やかな対応を得まして、盛会のうちに無事この大仕事を散会することが出来ましたことを、当委員会としても大変有難く思っています。また福岡県教育委員会の方々には本当にお世話に成りました。短期間にこれ程多くの教職員を集めていただきまして感謝申し上げます。そのうえ「福岡リーセントホテル」という立派な会場をご準備頂きましたことも大変助かりました。

我々の仕事はこれからです。まずは、当日参加された教職員の皆様にアンケートをお願いして、多数の回答を頂きましたので、その集計をここにご報告申し上げます。

平成16年10月1日

社団法人福岡県獣医師会 学校飼育動物専門委員会

当日参加人数

教職員（教育委員会、校長、教頭を含む）	約 145 名
動物愛護推進員（獣医師を含む）	約 55 名
獣医師（開業、勤務を含む）	約 40 名

アンケート集計（アンケートは教職員のみ）

回収結果（回収率 約 86%）

記名	102 名	
所属のみ記名	4 名	
無記名	19 名	合計 125 名

アンケート用紙

小学校における動物飼育に関するアンケートにお答えください

小学校名

ご氏名

(よろしければ学校名、ご氏名をご記入ください。)

該当するものに を (複数回答可) また [] の中にできるだけご記入をお願いします。

あなたの小学校ではなにか動物を飼育していますか? (飼育施設、教室内飼育を含みます。)

() 飼育している () 飼育していない () 把握できていない

飼育していると答えた方にお尋ねします。

1. 飼育内容を教えてください。

(例) 動物の種類	ニワトリ					
飼育数	4羽					
飼育場所	中庭の 飼育小屋					

2. 動物飼育の目的は何ですか?

() 情操教育として () 教材として
() 鑑賞・愛玩用として () 以前からそうされていたから
() その他 []

3. 飼育は誰がしていますか?

() 児童 () 学年で担当 () 年生 または () 飼育委員会等
() 飼育担当の先生 () 管理職の先生
() その他 []

4. 現在、飼育をする中で困っていることはありますか?

() 長期休暇中の管理 () えさ代
() 治療費 () 飼育施設の修理
() 飼育動物の異常 () 飼育児童の衛生面
() 飼育動物が出産で増える () 動物が持ち込まれて増える
() その他 []

5. 飼育動物に異常が見られたときはどのように対応していますか?

() 獣医師に相談または診察してもらう () 自分達でどうにかしている
() ほとんど無処置で様子を見ている
() その他 []

6. 飼育動物が出産などで増えてしまった場合の対応はどのようにしていますか？
 増えたままで飼育を継続する もらってくれる人をさがす
 増えない様に飼育形態を変える 不妊手術を考えている
 その他 []
7. 飼育に関するえさ代や治療費などはどれくらいありますか？
 ぜんぜん無い 1ヶ月の予算は5千円以内
 1ヶ月の予算は1万円以内 1ヶ月の予算は1万円以上ある
 その他 []
8. そのお金はどこから出ていますか？
 飼育動物名目の予算 学校の雑費などの名目予算
 教育委員会からの予算 保護者会からの予算
 校長先生や教頭先生のポケットマネー
 担当の先生のポケットマネー 子供達や皆さんの募金
 その他 []
9. 飼育動物の事で相談できる方はいますか？
 校内に動物飼育に詳しい先生がいる 近所に動物飼育に詳しい人がいる
 近くの獣医師に相談する 本などを参考にしている
 相談する人がいなくて困っている
 その他 []
10. 今後、獣医師会に対してどのような活動を期待しますか？
 飼育に対するアドバイス 飼育動物の健康管理・治療
 子供達への飼育指導 ゲストティーチャーとして授業に参加
 教職員に飼育の話をして欲しい 期待していない
 その他 []

本日の講演のご感想をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

社団法人 福岡県獣医師会

アンケート結果の集計

*** ()内の数字は、記入されている実数です。全体で125名の回答ですが、設問ごとに無回答や複数回答がありますので数の矛盾は生じます。

尚、[その他]の記入や、欄外への記入内容は似通った物をまとめて報告し感想を述べます。***

あなたの小学校ではなにか動物を飼育していますか？(飼育施設、教室飼育を含みます。)

(120)飼育している (3)飼育していない (0)把握できていない
さすがに把握できてない方はいませんでした。

飼育していない学校でも以前は飼育実績もあった学校もあります。

1. 飼育内容を教えてください。

動物の種類	ウサギが最も多く、次にニワトリでした。ニワトリは、普通のニワトリとチャボやウコッケイも含まれます。アヒルもいましたが、最近の合鴨農法の流れを受けて、アイガモが多かったです。大型の鳥では、クジャクや白鳥を飼育している学校もありました。大きな動物ではヤギがいました。小型の哺乳類では、ハムスターの教室、廊下などでの飼育もありました。哺乳類、鳥類以外では、昆虫やカメ、金魚や鯉もいました。メダカも子供たちの観察に適しているのか多かったです。その他、記入のあった動物達も紹介しておきます。ガチョウ、ホロホロ鳥、ハト、インコ、ロシアリクガメ、ザリガニ、熱帯魚、カブトムシです。
飼育数	飼育数は、学校によりまちまちです。ウサギやニワトリの多数羽(匹)飼育が目立ちました。ウサギを20匹以上飼育している学校は15校で、40匹以上も3校ありました。ニワトリでは20羽以上が4校ありました。そういう学校は多種類の動物を飼っていますので、全体の飼育数はかなりの数に成ります。この飼育数の多さが、以下の設問での問題点を浮き彫りにしているかの様でした。ちなみにウサギやニワトリの適正な数は1坪に1羽(匹)程度と言われていています。
飼育場所	飼育場所は、中庭や運動場の片隅の飼育舎が一般的でした。詳しく書いていただいた方は、校舎の東や西、駐車場やプールの横とまで記入していただけたのですが、それらを一括して飼育舎飼いと集計しました。その数は、117校とほとんどの学校にあります。教室飼育の例は11校です。廊下や玄関脇などの教室外飼育も18校ありました。その外、水槽や池でのカメや魚類の飼育、ビオトープの完備された羨ましい学校も1校ありました。合鴨農法では、学校に実習田が2校ありました。全体的に見れば、飼育舎にウサギやニワトリの合同飼育が多い様です。

*** 巻末に、学校飼育動物の種類、飼育数、飼育場所の詳しい資料を付けています。***

2. 動物飼育の目的は何ですか？

(93)情操教育として (55)教材として
(14)鑑賞・愛玩用として (62)以前からそうされていたから
(11)その他 []

全体回答数120名中の方々の内訳です。それぞれの()内に回答者数を記入しました。

大体予想通りかなと思われます。その他の数は、ご意見を書いていただいた数です。

その内容の中には、「命の教育」と強調された方が2名いらっしゃいます。「子供の自発的な飼育活動」と答えられた方が1名いらっしゃいました。「自主性を育てる」設問があればもう少し多くあったかもしれません。「以前からそうされていた」ということが、続けられている現実でしょう。「寄贈されたから。」「地域の方からもらったので・・・。」と答えられた方3名は、[感謝でしょうか、それとも仕方なくなのでしょうか？]少し気になった回答でした。

3. 飼育は誰がしていますか？

- (95) 児童 (13) 学年で担当 (42) 年生 または (73) 飼育委員会等
(66) 飼育担当の先生 (8) 管理職の先生
(35) その他 []

鳥インフルエンザの件以後、現場は混乱している内容と成っています。本来飼育委員会の活動なのに、児童が鳥類から遠ざけられています。その結果、残念に思っている児童もいるでしょう。しかし、飽きっぽいのも子どもの特性です。「遠ざけることが続けば、動物と関わる気持ちが遠のいている」と心配されている方のご意見もありました。考えさせられます。それでも事件から時間も経って来ましたので、少しずつ児童が再びお世話に関わりだしています。

飼育委員は5, 6年生がやはり多い様です。5, 6年生と一緒に1年生が入っている学校が1校ありました。年齢差のある学年が一緒にお世話をしている姿を想像すると微笑ましくもあります。生活科の教育方針でしょう、1, 2年生が飼育委員という学校も6校ありました。3, 4年の中級学年が主体で委員に成っている学校は18校でした。全校で活動している学校は4校です。

やはり問題は、夏冬の長期休暇を含む休日のお世話です。子ども達を出させるのは、最近心配されている不審者からの事件を未然に防ぐ意味でも無理なようです。代表勤務の先生がされることが多く、次に警備の方や用務員さんです。保護者や地域のボランティアの方が参加されている学校もありますが、そう多くはありませんでした。

4. 現在、飼育をする中で困っていることはありますか？

- (75) 長期休暇中の管理 (50) えさ代
(17) 治療費 (40) 飼育施設の修理
(24) 飼育動物の異常 (46) 飼育児童の衛生面
(42) 飼育動物が出産で増える (4) 動物が持ち込まれて増える
(25) その他 []

上記の数字に表れている通りで、113名の方が困っていると答えています。3項目以上の複数回答があったのは50名です。餌もスーパーや小売店で出た屑野菜をもらってくるそうで大変です。自校給食で残った野菜を使ったり、学校の農園で野菜を作ったりして努力している学校もありました。保護者からのいただき物や児童が持ち寄る学校も数校有りましたが、意外と少ないなあと感じました。

5. 飼育動物に異常が見られたときはどのように対応していますか？

- (28) 獣医師に相談または診察してもらう (56) 自分達でどうにかしている
(32) ほとんど無処置で様子を見ている
(17) その他 []

設問7以下の解答で解かりますが、予算が無いので、まずは「自分達でどうにかして」、命に関わりそうだったら「獣医さんに相談する」、またはそのまま「無処置で様子を見ている」様です。

中には、幸い異常を見る事が無いと答えられた学校もありますが、こういう学校はほとんどが少数飼育です。

6. 飼育動物が出産などで増えてしまった場合の対応はどのようにしていますか？

- (54) 増えたままで飼育を継続する (59) もらってくれる人をさがす
(31) 増えない様に飼育形態を変える (5) 不妊手術を考えている
(10) その他 []

「不妊手術を考えている」他にも、「その他」の回答で、既に不妊手術を受けている学校や少数単性飼育(少数飼いで雄だけや雌だけの飼育)は、この問題が無くて安心できますが、「増えたままで飼育を継続する」という回答には、「もらってくれる人をさがす」と答えたとほとんどの学校がかなりの多頭飼育でした事から考えると、なかなか数を減らすのが難しいのでそのまま継続している様です。実際には、学校間で交換や貰ってもらったりするらしいのですが、その回答は少ない様です。

7. 飼育に関するえさ代や治療費などはどれくらいありますか？

- (5) ぜんぜん無い (62) 1ヶ月の予算は5千円以内
(13) 1ヶ月の予算は1万円以内 (4) 1ヶ月の予算は1万円以上ある
(38) その他 []

当委員会では、平成15年に実施した獣医師会内でのアンケート調査の結果や今まで各方面でお聞きしていました事を総合してもこれが現実だろうと思いました。中には1ヶ月1万円以上ある学校が4校あり嬉しく思いましたが、この半分は多頭飼育で当然えさ代にかかるだろうと感じています。餌代だけはどうにか有るけど、治療費の予算までは無いというのが現実の様です。

8. そのお金はどこから出ていますか？

- (12) 飼育動物名目の予算 (59) 学校の雑費などの名目予算
(30) 教育委員会からの予算 (14) 保護者会からの予算
(0) 校長先生や教頭先生のポケットマネー
(3) 担当の先生のポケットマネー (0) 子供達や皆さんの募金
(13) その他 []

「担当の先生のポケットマネー」というのは、多くは教室内飼育の餌代の様です。「校友会費」からや「餌を現物寄付」と答えられたところも有りました。

「飼育動物名目の予算」と答えられた方は全体の1/10です。「雑費などの名目予算」が最も多く全体の1/2です。どの学校にも「飼育動物名目予算」が組まれるようになれば、現場もずいぶん楽になるだろうと感じました。「教育委員会からの予算」と答えられた方は全体の1/4でした。回答にあった事例を少し詳しく調べた内容です。「市議会議員が夏休みに飼育動物のお世話を手伝って大変な現状を知り、議会で市の教育委員会にこの件を質問して、良い回答が得られ治療費が出る様になった。」とありました。この例は、私達にも希望を与えてくれます。

9. 飼育動物の事で相談できる方はいますか？

- (25) 校内に動物飼育に詳しい先生がいる (12) 近所に動物飼育に詳しい人がいる
(23) 近くの獣医師に相談する (43) 本などを参考にしている
(30) 相談する人がいなくて困っている
(17) その他 []

「校内に飼育動物に詳しい先生がいる」「本などを参考にしている」と答えられた方は、重複回答もありますので59名で、全体の1/2です。まずは自分達でどうにかしようと努力されている現状が伝わって来ます。1/4の方が「相談する人がいなくて困っている」と回答されています。でも今回のアンケートは中川先生の『講話』を聴いた後に、記入された方が多いと思います。この講演会で「学校と獣医師会との連携が取れるのか」と感じ、「今まで獣医師会がこのような活動をしている事を知らなかった」「獣医師に相談できる体制ができると助かる」と、多くの方からご意見を記入いただいています。

10. 今後、獣医師会に対してどのような活動を期待しますか？

- (94) 飼育に対するアドバイス (82) 飼育動物の健康管理・治療
(60) 子供達への飼育指導 (55) ゲストティーチャーとして授業に参加
(40) 教職員に飼育の話をして欲しい (0) 期待していない
(6) その他 []

まずは、「期待していない」が(0)だったことに大変ホッとしています。これも中川先生の『講話』を聴かれる前のアンケートでしたら如何だったのかと考えてしまいました。実際には、獣医師が「ゲストティーチャー」や「職場体験の受け入れ」など、地域と関わりを持つことが増えて来ています。「もっと獣医師を利用して欲しい」「何かお手伝いできることはありませんか？」と、獣医師会員の意識は高まっています。それでも福岡県獣医師会会員の中にも「面倒だ」「そこまでしなくても良いと思うけど」と意見を言われる方も少なくないのは事実です。よい連携を作っていくのは、これからと考えています。

講演の感想をご記入いただいた内容

『大変役立ちました。市内の校長会にも報告し、これからの動物介在教育にたずさわりたい！ありがとうございました。』

『日置光久先生のお話は、あたたかい口調で心に残るものがありました。私は、国語専門で理科から遠のいていましたが、何だかやる気ができました。子供たちに、心ゆれ動く感動体験を経験させていきたいと思いました。中川美穂子先生のお話は感動でした。本や資料の中では存じあげていましたが、動物を愛するという気持ちを強くしました。土、日や長期休暇にもかかわらずです。しかし、私ひとりで日常も病気のこととかもろもろかわっていくのに表にも書いていますように、学校飼育動物がたくさんいるため正直いって大変です。うさぎ小屋には、うこっけいやにわとりがいる状況です。さっそく居室をつくらうと思います。私は、できることはしていこうと思います。「あー、今日もよいウンチをしているなあ」と言えるように…。がんばります。』

『中川先生の話から動物飼育の大切さを改めて感じる事ができた。特にハムスターを教室飼育していたクラスの児童の絵や文章が、月々に変わっていくのにはおどろいた。愛情をかけることのすばらしさが表れていた。また、3、4年生の学年飼育という考え方に、今まで自分の中にあった、「飼育委員会の仕事」という概念が固まったものであることが分かった。自分の学校でも検討してみたい。鳥インフルエンザの件でも、学校から保護者に冷静に啓もうしていくことが必要だと思った。』

『今日、午前中は県同教に参加しました。午後からはこちらへ来て話をきかせてもらい命の勉強をさせていただきました。話をきかせていただくにつれ、命の大切さ、心を育てること・・・に、動物がとても大切な役割を果たしてくれる？ことに気づきました。学校では、なんとなく義務感でうさぎをかっていましたが、私たち教師の言葉かけ一つでも、子どもたちの感性を育てることができるのだなと思いました。人の命もかけがえないものですが、飼育している動物も同じです。おたがいを大切にしながらつながりあい、心豊かに生活できるといいなと思います。私たちはやっきになって、「心を育てよう」と、いろいろなとりくみをするのですが、動物がそのやくわりをしてくれるような（心をかよわせることができる。人と動物 人と人）気がします。私自身のいしきを変えたいと思います。それと、私は二児の親でもあります。子どもは、動物を飼いたがります。私も子どものころからかっていたので大好きです。でも、ふだん家にいる時間が少なく、好きだけ動物の命のことを考えると、かえません。やはり、家族のためにもかいたくても命を天びんにかけて、どうしてもできません。毎日そういう葛藤もあります。』

『ほんのちょっと知識と愛情があれば、子供の教育にとっても大きな貢献をすることが理解できた。ウサギは、ほんとはこんなところで生きているんだよと（パワーポイントの写真）が、大きなインパクトを子供たちに与えると思った。いつか使ってみたい。我が家でも、犬2匹、猫1匹、ウコッケイ2羽、飼っているが、旅行にもつれていくと、どこでも必ず人が話しかけてくるので、よいコミュニケーションになっている。教育効果バツグンは理解できる。元来、猫はきれいなつもりだったが、飼ってみると好きになった。めったに獣医師の方にお話をきけないので貴重な時間だった。地域でも獣医師さん方と学校とのネットワークが広がればよいと感じた。』

『中川先生の講話について、「動物は使いよう」という言葉が一番印象に残りました。「飼育教育の方法」は、すこぶる納得のいく内容であった。「飼育には『継続』することが第1である。」ことがよくわかった。獣医師会との連携の必要性を実感しました。このような研修会は、全職員、一度は参会すべきであると感じました。大牟田市には、獣医師会はあるのでしょうか。（そういうことすら知りませんでした。）」

『とてもよい話だったので、今後もこの研究を続けてほしい。』

『学校教育と体験学習について、理科の学習で何を育てていこうとしているのか、自然と科学を結ぶために体験学習が大切であるということ等、飼育学習との関連がよく分かった。講話2について、動物を飼うことの意義や飼育の仕方、子どもの関わり方等、とてもよく分かるお話でした。飼育舎の見直しをし、今後の飼育の在り方を考えるよい機会になった。鳥インフルエンザに対する対応の仕方等、大変役に立ちました。ふんのよしあしが発見できる子どもを育てる飼育の在り方を目指していきたいと思います。』

『講話1では、理科教育の目標について、人を教育していく上で自然と科学とのかかわりの分野より、とても納得できる説明をしていただきわかりやすかった。教師の意図的な働きかけで、子ども達の本当の「生きる力」につながるものが、愛情をもちながら成長に気付くことの大切さを改めてわかった。子どものもっている愛情をもとに飼育にあたることで、人間の大切さ生き物の大切さをあらためて感動しました。本日の研修はとてもありがたかった。学校と獣医さん方と連携をもっと動物愛護の授業を通して、豊かな感性を身につけていきたい。』

『本日の研修、大変有意義でした。中川先生有りがとうございました。小動物を飼う意義また大切さを、たくさんの方の事例と資料からしっかり受けとめることができました。又、各地に見られるひどい事例には驚きと怒りを禁じませんでした。でも、現在、活動されている内容に大いに共感しました。日本の学校教育が大事な何かをおさざりにしてきたようで心が痛みます。獣医師さんとのいい連携を今後は是非作ってきたいと思います。これからの子どもたちの為に、小動物たちの命のために、福岡県でもよい連携ができますよう教育行政の方でもあと押しよろしくをお願いします。』

『この場では質問はしにくいと思います。教育事務所別、市町村別ぐらいに分かれて、実態、課題を話し合える時間をもっていたかたかった。そして、教育委員会に理解してもらい、教育委員会にもっと動いていただきたい。このアンケートも獣医師会がメインのように感じられるが、もっと教育委員会が積極的に関わり各学校の様子を把握し対応を考えていただきたい。年に1度は、市内の各校の飼育担当者(委員会担当)と管理職、教育委員会、今年の担当、獣医師の先生が顔合わせしたり、情報交換したりする場を設けてはどうでしょう。(年間計画等)そうすると、飼育委員の先生方も安心できると思います。サポート体制を整えていただきたい。中川先生のお話、とてもわかりやすく疑問もいくつかとけました。いいお話が聞けて良かったです。ありがとうございました。乱筆で申し訳ありません。』

『子どもたちの感性を培うために動物飼育が大きな役割を担っているということがよくわかった。今後校内で論議していこうと思う。』

『どちらの講師の先生のお話も大変分かりやすくよかったですと思います。中川先生のお話、学校飼育動物研究会が発足するときにききましたが、これまで学校での動物飼育についての情報をほとんど知りませんでしたので、今日は大変よかったですと思いますし、これからどんどん情報を得ていきたいと思います。』

『学校で飼っているうさぎも、今日、中川さんがお話しされた通りの問題をかかえています。4年生になり飼育当番をひきつぎましたが、私自身どんな風にお世話しているのかがわからないまま、半年がすぎました。子ども達は考えた以上にうさぎをかわいがっていますが、かわいみのみに終わってしまっているのではないかという不安があります。最後まで責任をもって・・・という姿がまだまだ見られません。今日のお話の中に、たくさんの方の改善策を見つけました。2学期初めにもう一度子ども達と話し合いたいと思っています。いつも動物病院の先生にはお世話になっており、アドバイスをいただいています。もっと、意見を聞いたり相談したりして、よりよく、飼育をしていきたいと思います。』

『動物の飼育は、子どもの心に訴えるものであるということは、私も考えていたが、学校の飼育については、いい加減な飼育をやっていると思う。教師側がしっかりと目的意識を持ち、しっかりと飼育をしていくことで、命の尊さなど、直接訴えることができると思った。ぜひ実践していきたいと思う。』

『「無理のない数を丁寧に最後まで・・・。」笑い声が聞こえる飼育、まさに理想的な飼育活動だと思います。しかし、そのためには、お金がかかります。学校の職員だけでなく保護者や地域の方の協力も必要です。現在、本校ではうさぎを15羽飼っていますが、ダニかいせん症にかかっていると思われます。しかし、管理職に相談しても、「予算がない」ということで、どうしようもありません。本日の講演は、飼育担当の先生が多かったように思いますが、管理職の先生や教育委員会の方々にも聞いていただきたかったと思います。どうもありがとうございました。』

『今日の講演大変参考になりました。この4月この小学校へ赴任したところで、まだまだ本校のこと十分なことを理解できていません。でも今日のお話をお聞きし不安もとりぞかれたし、飼育することのすばらしさ、大切さがよくわかりました。知らなかったことが多かったです。獣医さん(獣医師会)がとても身近に感じられました。これからどうぞよろしく願います。学校にも獣医さんが必要です。』

『正直いって、お役目として担当していました。子どもも、動物も、本当に、同じだと思いました。教室には金魚、飼育舎には、ニワトリ、ウサギとたくさんいます。PTAの方にも、獣医師さんがいます。が、今日のお話を聞いてハッとした次第でした。ありがとうございました。もう少し、子たちについて、一緒に、飼育活動をしていこうと思いました。』

『学校に獣医さんがおられると、すごく助かると思った。細かいことや動物への愛情の注ぎ方の深さにおそれいった。(かい方、おせわのしかた)子どもに対しても大変だけど、いいことだなと思った。学年で飼うとかPTAを巻き込むとかたいへん参考になる。これからに向けて良き提示をもらった。』

『子どもたちの教育に、動物の飼育が果たす役割や重要性を忘れていた。自分の勤務する小学校でも、鳥インフルエンザのニュースなどの影響もあって、飼育しているニワトリのことは、子どもたちから遠ざけられているので、本日の研修会の内容をできるだけ、みんなに伝えて、みんなで考えていきたいです。』

『トリインフルエンザ後、飼育舎でのにわとりの飼育をやめました。私自身、生活科等で小動物を飼う場合、子ども達と何を飼育したいかを話し合い自分達の飼いたいものを自分達で育てるべきだと思っています。与えられた動物を飼ってもしかたないと思います。それでは豊かな感性が培われないのでは、と今まで考えていました。今日、この研修を受けて、共感する部分もたくさんありました。ありがとうございました。最後に、教育事務所の給食訪問の指導で教室内で小動物を飼ってはいけないという指導ががあるので、本地区では教室内で小動物を飼っているところはないと思います。』

『学校における飼育動物の意義やねらい、飼育に関する具体的な留意点分かり、とてもためになりました。鳥インフルエンザのため、子どもたちの飼育活動をしばらく休止していました。本年度4月中旬に再開したのですが、親からの心配や大丈夫かという声に、きちんと自信をもって言いきれませんでした。我々が正しい知識を得るためにも獣医さんや関係機関から正しい情報を得ようと思います。』

『継続的にかかわることが必要だと思うが、学校獣医師の存在はきわめて大きいと思った。また飼育日誌による、子どもたちの成長は大変参考になった。病気の時、動物病院にかかったが、料金が高かったので大変だったしお金の出どころもないのが学校の現状です。やはり学校獣医師の公としてのシステムや支援が必要です。(保険でもあればと思いました。)]

『動物飼育が子供にとっても大人にとっても大切なことが分かりました。具体的な事例をたくさん話していただいて分かり易く、大変勉強になりました。ありがとうございました。獣医師会の方々がこんな活動をしていらっしゃることを初めて知りました。すばらしいと思います。』

『正しい飼育の在り方について理解できました。特に飼育舎の在り方。』

『中川先生のお話に感心しました。私も何年も飼育委員会にたずさわってきた。みんな嫌がるので、どの委員会でもいいですという、もう20年以上もどの学校に行っても飼育担当で、詳しくならざるを得なくなりました。先生も子どももさまざまに動物好きの人もいれば、動物嫌いの人もある。意義や動物の役割など頭で分かっている、さわるのもイヤという先生もいる。理解ある管理職の先生もいれば、余り関心を示さない先生もいらっしゃいます。本当に難しいと思っています。福岡市の獣医師会も無料で診察して下さるようになって本当に助かっています。少しずつ学校飼育動物の状況が良くなっていくといいなと思っています。そういう希望がもてる講演会でした。有難うございました。』

『日置先生のお話は、理科の学習の中で、いかに子どもたちの体験が大切かということ、もう一度考えさせられました。中川先生のお話は、飼育担当者として、とても為になりました。うちの学校では、ウサギを飼っていますが、35匹にも増え、困っています。数をへらして丁寧に育てると、子どもたちが、かわいいと言いつ出したという話が・・・なるほどと思いました。また、身近に相談できる獣医師さんがいらしたらなあ・・・と切実に思いました。どうもありがとうございました。』

『中川先生のお話は、もっとたくさんの先生方に聞いていただきたいと思った。たいへん参考になった。また、学校で動物を飼うことの意義を再認識することができた。閉会の挨拶も、心のこもったものであった。』

『動物飼育の研修会ということで、鳥インフルエンザに始まる、動物への対応が何かと思っていましたが、動物飼育の効果や飼育のあり方など事例をもとに詳しくお話いただいたことが、大変参考になりました。特に、ウサギについては、小屋の環境やカビが強敵であることなど、学校の現場で何故だろうと思うことの原因もよく分かりました。今後の飼育活動に大変役立ちそうです。最後のVTRで、子どもたちが大変落ちついていることが、飼育の効果を感じていました。学校の方でも伝えていきたいと思いました。』

『動物が子ども達の発達(成長)に大きな影響があることがわかりました。学校では動物を飼っていないので残念ですが、今後は検討していければいいなと思っています。我が子も動物が大好きで、いつも「飼ってー」とせがまれています。そのたびに「だめだめ」と言っていました。今日の話聞いて大変反省させられました。』

『講演の内容は納得します。でも、私自身が飼育担当をしているからこそだと自負します。学校の子も活動大好きで、生きものを育てたり、植物、作物を育てたりすることに労をおしりません。話題も豊富です。しかし、少しでも飼育舎の環境をよくしたいと思っても予算がない。衛生上、安全面上、子ども達にお世話を充分させることができないなど、お飾りのための飼育舎ではないのにと感じます。1の2の子も達は私の責任において、飼育舎に入れてお世話をさせているのが現状です。管理職、教育委員会は責任を持ってくれないのだと思います。』

『改善点、すべきこと、たくさん発見することができました。どうもありがとうございました。さっそく、できることから取り組んでいきたいと思っています。』

『中川先生の話は、とても参考になりました。アンゴラウサギをもらいましたが、十分に世話ができていません。まずは、床をコンクリートにあげます。』

『本日の講演を聴いて、改めて、飼育している小動物の飼育の在り方、動物を飼ったり、ふれあわせることでの教育効果について、もう一度見直していこうと考えました。』

『中川先生の話をもとに自分の学校の飼育舎を思いかべながら聞きました。具合が悪いウサギがいた時、隔離しただけで、近くに獣医さんがいないのもあって、そのまま死なせてしまったことを思い出しました。学校で動物を飼うということ(意義、環境等)改めて考えさせられました。』

『動物飼育に対して、随分まちがった知識をもっているなと反省させられました。うさぎを飼う時には、穴が掘れるように土を入れてやっておかなければいけないと、何となく、知らされていました。又、鳥インフルエンザの時は、保護者からも随分心配した苦情が届き、対応に困りました。その時には、委員会等がより無難にする為に、子供たちにさわらせないようにという指導がありました。学校としても、諸々のことを考えると、そうするしかないなと思うこともあります。マスコミのさわぎすぎ、まちがった情報等で学校もふりまわされていると思いました。学校を犬や猫の捨て場所になっていることがあり困りました。職員で手分けしてもらってくれる人を探しました。通信等で捨てないようにお願いした経験があります。アレルギー体質の子供の問題もよく話題になります。』

『飼育教育の有意性がよくわかりました。学校教育の中で飼育は欠かせないものですが、獣医師会との連携(学校支援等)の体制作りが今後大切になってくるなと思います。』

『中川先生のお話はとてもよくわかりました。学校で動物を飼う意義を整理することができました。明日、自分の学校に帰って飼育小屋に行ってみたいと思います。』

『ウサギを2羽飼っています。世話をするのではなく、育てているという意識でのぞみたくなりました。ありがとうございました。しかし、このことを明日、現場の先生方にどう伝えたらわかってもらえるのか・・・』

『中川美穂子先生のお話、とてもわかりやすく、興味深く聞きました。ありがとうございました。』

『ニワトリを飼っているのですが、4月頃、市教委から、子ども達には、動物をさわらせないようにという指示があり、そのままになっています。現在は、警備員(用務員)の方に、お願いして扱っている状態です。いつになったら、子ども達に接触させてよいものか、心配しておりましたが、今日の講演でハッキリとしました。小学校低学年、中学年では、動物飼育による教育の大切さを改めて知りました。出席してよかったと思っています。』

『学校飼育の大切さを実感することができました。できることからやっていきたいと思います。ありがとうございました。』

『飼育に関して科学的、冷静なお話、ありがとうございました。小動物の具体的な飼育の仕方から、子どもが受けるえいきょうのデータ化、たいへん勉強になりました。正直いってうらやましい。“専門の知識、指導が受られる体制”福岡県は、鳥インフルエンザに関して安全宣言を出していないので、現在、うちの学校では子どもは飼育小屋にちかづくことができません。(こっそり、世話にしている子もいますが・・・)今の現状がどうかすることできないかと思い今日来ました。』

『学校での飼育が、子どもたちにとって豊かな感性を培っていくことが、事例を出されたのでとてもよくわかった。学校の飼育の仕方を考えていかなければいけないと考えました。いろいろな学校の事例を見せてもらったので参考にしていきたいです。』

『中川先生の話はとてもよかった。現在の飼育のあり方に対して反省もしたし、飼育舎のあり方も考えなきゃ・・・という気持ちになりました。予算がからむ問題なので、かんたんに改しゅうなどできませんが、今後検討していきたいと考えました。大牟田でも獣医師会の先生方との連携があれば・・・、と思いました。』

『学校の(本校の)ウサギもふえて、えさもたくさん必要になり困ったこともありました。今は、飼育委員会を中心にお世話をしています。休み中は職員がしています。今日の講演の飼育体験学習の話は、やはり心に残りました。これまで何気なく学校のウサギ、ニワトリを見ていましたが、私もちよっと見る目があつたかくなれるかも・・・。いい話を聞かせてもらいました。ありがとうございました。』

『うちの学校も、農園のうらをほるとウサギの骨がゾクゾク出てきます。病気やけがをしたウサギは、何の手当もないまま死んでしまう現状です。かわいそうですが、お金がなく、エサを買うのもギリギリの現状なので、仕方ないなと思っていました。私自身ウサギをさわった事がない、何を食べるのかも知らないという勉強不足のまま担当になったので、子どもと共に学びながら飼育をしています。今回の講演で動物を育てるメリットをたくさん教えていただき、動物を生かしていけるようがんばろうという気持ちになりました。うちの地域でも年に1度でもいいから専門家のアドバイスをうけられるようになるとうれいなと思います。そうなるよう、声をあげていきたいと思います。』

『動物飼育の教育的意義がよくわかりました。』

『動物のもつ力、動物とのふれあいのすばらしさを感じました。本校でも、子どもたちがニワトリの世話などよくしてくれていました。でも、今では近づかせていません。近づけられなくなりました。そして今は近づけません。お話をきいていると、近づけてもだいじょうぶと思われたのですが・・・』

『科学的な視点から、学校飼育のことを考えることができました。これまでの実験結果や子どもの調査など、今までに知らなかったことを多く学ぶことができました。また、実際の飼い方、「少しのそうじで、触れ合いをたっぷり」ということがとても新鮮であり、自分もすっきりした気持ちになりました。』

『中川先生のお話、大変参考になりました。これだけ多くの教師（管理職も含めて）にお話し下さると学校教育もかわっていきと思います。うれしいことです。8.29の東京シンポジウムもたのしみにしています。今後も御指導よろしくおねがいします。ありがとうございました。』

『中川先生の話に全く同感です。（2回聞きました。1回目は宗像で聞きました。）また動物が、子ども（人）に与える影響なども大きいしとても大切な役割を持っていると思います。・・・が、私個人の本心でいうと、学校での飼育は反対です。（世話の大変さ、教師にとって得手不得手がある。管理職の姿勢など、今の教育条件を考えると・・・）クラスでの担任の教育方針に沿った教育が一番と考えています。子どもにとっても、動物にとっても、一番いい環境がつかれることを願って、今いる動物たちの世話をしたいし、そうなるための運動をしたいと思っています。急いで書いたので、文がへんと思います。すみません。』

『動物飼育の意義をあらためて感じた。また、動物が快適にすめる環境づくりに今後ともとりくみたい。』

『動物とのふれ合いが、子どもたちの心をいかに豊かにしてゆくの、とてもよくわかるお話でした。私自身、あまり動物とかかわったことがなかったのですが、これから自分自身が動物とかかわってみたいと思いました。獣医さんとの連携を、本校でもできたら・・・と思います。わかりやすくとても勉強になる研修会でした。』

『ニワトリやうさぎなど以前から飼育して子どもたちの生活にとけこんでいます。しかし、近頃は、いろいろな病気等が心配され、ほんとうにこのままでよいのか心配でした。よい機会に研修があり参考になりました。プールで鯉を飼育してもよいのでしょうか？飼育小屋の見直しをしたいと思います。』

『動物とふれあうことが子どもの心の発育に大きく影響することが分かりました。これまで教材としてみてきましたが、みかたが変わりました。学校全体で考え、取り組むべきだと思います。飼育舎の建てかえ（改修）も考えているところなので、今日の話ぜひ学校でします。大川市でもお願いすれば獣医師会に相談にのっていただけるのでしょうか？学校に戻って尋ねてみます。』

『「ウサギ小屋の床はコンクリートで水はけをよくすべき」など、基本的な知識・情報を数多く教えてもらい、大変勉強になりました。本校の他の先生にもきかせたい内容だった。動物飼育の重要性も再認識しました。学校獣医師との連携が大切だと改めて思いました。行政の働きもたいせつですね。』

『中川先生の話をお聞きして、学校飼育動物が子どもたちの心の教育にどれだけ影響しているかを知らされました。教育委員会からの通知では、動物に子どもたちを触らせるなということですが、話が違うなあと思いました。小動物を胸に抱いて子どもが優しく心豊かに笑っている画像がすてきでした。ありがとうございました。学校と獣医師（会）との連携が必要です。』

『日置先生のお話は、学校教育での理科学習のあり方（特に生命を大切にできる心情を育てる）について、くわしく話をさせていただいて、勉強になりました。中川先生のお話は、具体的にどのように動物を飼育したらいいか話をさせていただいたので、今後の学校飼育に生かしていけそうです。いかに学校での飼育の仕方がまちがっているかが、よく分かりました。ありがとうございました。』

『普段は他の教育活動に追われて動物のことをよく考えていないことに気づきました。中川先生の話は具体的で、学校における動物飼育のあり方について分かりやすく理解することができました。獣医師との連携ができていくように希望しています。また動物と子どもたちが飼育を通して関わりを持っていけるようにとも今日の研修で思いました。』

『獣医師会との連携ができていることが理解できた。』

『学校にもどってもう一度飼育小屋を見直してみようと思います。二年生の子どもの担任をしていますが、子どもたちといっしょに見直します。』

『身近に協力的な獣医師がいて、学校教育の一環として、飼育の在り方をサポートしていただく体制づくりをしていく必要があると思いました。』

『昨年度赴任して、現在勤務している学校では、飼育舎にうさぎやにわとりなどを飼育しておらず、一羽だけ生き残っていたインコも1学期に死んでしまいました。飼育舎で動物飼育をしていない理由や期間などについては把握していないのですが、本日の講話を聞き、改めて、飼育教育の大切さや意義について考えることができました。また、飼育についての基本的な考え方を学ぶことができ、とても勉強になりました。今後に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。』

『中川先生の話は、具体的事例をもとに話でわかりやすかった。飼育動物の環境を良くするには、予算が必要である。しかし、学校では、なかなか予算がない。うまく使える予算のシステムがあるなら、それを知りたい。』

『飼育動物の飼育について改めて考えなおす機会になった。また、獣医師との連携が大切だということがよくわかった。再度、飼育のあり方について点検し修正していきたいと思った。』

『大変参考になりました。学校獣医師をつけて頂けるよう、校長にかけ合ってみます。教師の無知が悲しい結果を生んでいることがよくわかり、改善しなければいけないことを痛感しました。』

『中川美穂子先生の講話がとてもためになりました。ありがとうございました。』

『今まで、何となく校内のニワトリやウサギのを見ていたけど、正しい飼育のあり方が分かりました。学年における飼育の仕方とか、くわしく教えていただきよかったです。動物と人間の関係とかも考えさせることでした。獣医師との連携の必要性を感じました。』

『飼育が子ども達にどれだけの良さを、影響を与えているか、よく分かりました。でも、家で飼うことが基本だと思います。よい環境が、なかなか学校ではつくれないように思います。飼育小屋の広さ・・・』

『学校での動物の飼育のあり方がよく解かった。』

『中川先生の具体的な事例をもとにした講演が大変よかった。現在本校では獣医師の支援でよりよい飼育の在り方を指導していただいています。今回の講演により学校と獣医師の方々の連携が必要ということを認識しています。また学校としても改善点を再度洗い直したい。』

『<日置先生のお話について>子どもたちに実際に触れ合わせることを大切に、意図的に働きかけることで、子どもたちにとって実のある学習になることを実感いたしました。<中川先生のお話について>命の実感を与え、豊かな感性を培う飼育について、たくさんの事例をあげ、講演していただきとても勉強になりました。飼育係として先生からいただいたアドバイスをもち、子どもたちへの関わらせ方を考えていきたいと思えます。(飼育活動によって子どもたちにとって得るものがたくさんあると考えました。)』

『今、うさぎの足が弱っていて、ずうっと病院につれていっていました。なかなかよくななくて、40,000円ほどになり、予算をオーバーし、その後は自分で出すしかないなあと考えています。毎日、一日も欠かさず、世話をしています。係りがかわったらどうなるかなと思っていました。しかし、今日の話で、4年生が世話をするなどの工夫をするとういいなと思いました。学校における動物飼育のあり方について、考えさせられました。子どもと飼育動物とをつないでいけるように、担当としては、小屋の衛生面、飼育動物がすごしやすいように、工夫していく必要があるなあとと思いました。』

『中川先生のお話は、とても心に残りました。学校の他の先生方に今日話を伝えたいと思えます。学校と獣医師と連携して、学校の動物飼育教育を進めていけたらと思えます。飼育小屋を清潔にするよう心がけたいと思えます。動物を飼育することの意義を先生方に伝えていきたいと思えます。』

『中川先生の講話を聴き、今まであまり意識していなかった動物たちの事に思いをはせた。』

『学校でのうさぎのお世話をしています。どんなにして飼育しているのか分からず大変です。獣医師さんとの連携をとれたら、どんなに安心できることでしょう。今、頭がねじれて(首が)そのままさを食べているうさぎがいます。見ている子供達は、かわいそうという気持ちの子もいれば、「すごいね。」と感心している子もいます。今日は、大変参考になりました。ありがとうございます。なかなか赤ちゃんが産まれないのはどうしてでしょうか。』

『具体的事例が多く大変参考になりました。子どもの心を育てるために飼育動物が大きな役割をもっていることが改めてよくわかりました。』

『日頃何気なく“飼育”については考えていたけど、今日の講演を聞いて、その意義などがよく分かりました。学校として、子どもたちに飼育を通して大切な教育ができることをつくづく感じました。』

『講話2はとても参考になった。学校獣医師を教育委員会と相談し作り、相談しながらすすめていきたい。現在、鳥インフルエンザの影響で動物に子どもたちの「ふれあい」「世話」を中止しているが、町教委と相談し考慮したい。』

『「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「特色ある学校づくり」が今日の教育課題である。日置先生の講話では、飼育を通しての体験活動が学力と豊かな心の育成にとって意義があることを感じた。中川先生の講話では、学校での動物教育の重要性を子どもの育ちの観点でデータを基にした話だった。飼育の方法の話から児童心理の面から、本校の飼育について考えさせられた。反省させられる面が多く、見直しをする必要を強く感じた。』

『中川先生のお話、実践的で参考になりました。』

『動物飼育の役割や方法について、よくわかりました。子どもたちが、飼育にもっとかかわれるよう工夫していこうと思います。』

『日置先生は、科学の必要性、継続飼育の大切さを訴えられました。学習指導要領を再読し、子供達に伝えていきたい。中川先生は、ペット飼育が子供に与える教育効果を分かりやすく講話していただきました。正しい知識を知ることが大事だと思います。今回の講演会は、とても参考になる、充実した内容でした。どうもありがとうございました。』

『動物とふれあう体験の大切さがよくわかりました。飼育舎のつくりの面、獣医さんによるサポートの面等、今後に生かしていきたいと思います。動物が苦手な私が、飼育委員会の担当になり、困っていましたが、今日のお話で、少し楽しく活動できそうな気がしてきました。私だけでなく、知らない先生方がいらっしゃると思います。学校に戻り、伝えていかなければと思いました。』

『観察、実験などに栽培、飼育が入っていることがわかりました。犬、ねこを飼ったらいけない訳がよくわかりました。(動物の気持ちから)継続的に愛情をもって、飼育することの大切さを教えて頂きました。動物を飼うことで、どれほど子どもたちの心が豊かになるか、お話を伺ってわかりました。』

『学校飼育の必要性を再確認することができた。獣医師会との連携を取ることができれば助かります。』

『初めて獣医師のお話を聞きました。学校に長くかかわって来られた先生だけに、資料も豊富でわかりやすく、大変参考になるお話でした。学問的な内容は、興味深く聞きました。』

『中川先生の講演は学校での飼育上非常に参考になりました。ありがとうございました。』

『たいへん参考になりました。』

『昨年のような鳥インフルエンザ等の伝染性のある病気等が出た場合、学校、委員会としても過敏になりすぎ、子どもたちを遠ざける傾向がある。生物とのふれあい、体験は重要なことではあるが、ウイルスに対する世間の見方、安全性(手洗い、うがい等による対処法)を十分に考慮して、広めてもらいたい。正しい認識により、より身近な体験として学校での飼育ができればよいと思います。(現実は難しいことが多い。動物飼育のお話、個人的にも大変、役に立ち、おもしろい話でした。ぜひ、多くの先生たちにも聞いていただきかったです。』

『どうも有難うございました。動物を飼育することの意義。ただ頼まれたから飼育する。そういうことではなく、飼育する動物と関わる子どもたちとの関係、影響について考慮しながら、飼育していく必要性は感じました。あくまでも、人間の思いどおりの飼育になってはいけなと感じました。』

『講(1)について、大学の教養学部の学生への講話ではないのですから、講話の内容の深みや充実を考えて話されるべきだと思いました。我々現場の教師は、今日の話の中に出てくる内容位のことしか学習させていないのだと思われることは、本当に残念です。「子どもの学力」を如何につみあげていくかを、もっと真摯に考えて頂きたいと思いました。小学校の国語の教材を読まれたことがあるのでしょうか？子どもの科学への認識のカリキュラムは、とても高度です。(1)の講演は、本当に残念な内容でした。』

『ウサギが本来住んでいる場の写真を見て、はっとした。ウサギの顔は小屋とセットになってしまっていた。このような写真を子どもにもみせて、ともに、小屋でかってもウサギがのびやかに暮らせる対応を考えたいと思った。10歳まで、子どもを社会から守り多くの体験を積みせなければ、その後、子どもから社会を守らなければならない。という言葉が心に残った。』

『中川先生のお話がとても参考になりました。学校に帰ったら、担当に伝えます。』

『大変よかったです。とりインフルエンザの件に関しても、近くに獣医さんがおられて、相談できたことで対応ができました。しかし、他の学校では、町の教育委員会から、もうOKですという文書を出されていないということで、校長がOKと言われなかった学校もあったようで残念でした。今日のお話で、あらためて、動物を飼育していくよさを考えさせられました。現実には今の学校の飼育環境は動物にとってあまりよくないものだと痛感しました。予算もかかわってくる事で、すぐに改善はむずかしいのですが、学校内で話してみたいと思います。』

『中川先生の話がとても具体的でわかりやすく参考になりました。』

『小学校の現場では、低学年の生活科や高学年になれば飼育委員会等で子どもが飼育動物に触れ、世話をする機会を持ちます。動物が好きな子は、進んで活動しますが、でなければ、生理的に嫌がる子もいます。近年はアレルギー等の為に動物に近づくこともできない子もいます。動物を世話をする活動を組むことも、難しくなってきました。現任校は以前、たくさんの種類の動物を飼っていたらしいのですが、週5日制の導入などで、平日、ゆっくり世話をすることが、子どもも教職員も持てないのが現状です。だんだん動物は古くなった舎のすみから野犬やヘビが入っておそわれたりして、少なくなってきました。整った舎で、生き生きと動物と子どもたちが楽しく過ごせるには、動物飼育に対する様々な条件や制度が整えられるといいと思います。また、学校獣医師のシステムいいですね。福岡県にも広まってほしいです。』

『学校と獣医さんの連携が大切だと感じた。いい糞が出たら喜ぶ子ども達をめざしていきたいです。』

『学校教育の理科学習の目的、学年の内容の系統化等、理論面、後半は、具体的に動物を通しての講話でバランスが、とれた研修内容で役に立ちました。飼育を通して豊かな心を育むことの価値は大きいと考えます。又、飼育の体験もアパート等、飼育場所がないという環境の中にあります。そういう状況がある中で、学校の役割は大きいと考えます。ただ、飼育活動にも問題がないわけでもありません。食中毒、病気、清掃等、えさ代・・・だんだんと飼育活動が消極的になっていく傾向にあります。この研修会の目的は、飼育活動を積極的にこなさいというものか、飼育活動が果たす役割を研修する目的でしょうか、この時期に目的がはっきりしないと感じています。』

『今年から飼育担当をしています。本当は動物嫌いで、担当になったとき、がまんしながらエサやりをしていました。子供達も、先生が見せて下さったビデオのように、世話をすればする程、愛情がわくことがわかり、委員会以外の子供達にも積極的にふれ合わせたいと思いました。』

『わかりやすいお話でした。参考になりました。』

『動物飼育が子どもの心を育む上でいかに大切であるかということがわかりました。また獣医師会との連携いなんて考えたこともありませんでした・・・。明日、学校に行って2匹のうさぎと関わって、再度、本校での飼育活動で何をしなければいけないのか・・・。考えてみたいと思います。』

編集後記

たくさんのアンケートが集まり大変嬉しく思います。閉会の時刻も押して、少ない時間の中でのこの回収率は、教職員のこの問題に対する意識の高さと研修に対する熱心がうかがい知れました。メモを取りながら聴いている姿は、『講話』の内容をしっかりと受け取ろうとする姿勢が感じられます。最後の欄の「本日の講演のご感想をお聞かせください。」への記入は、時間が無かったにもかかわらず記入者103名でした。記入無しが22名だけでしたので驚きました。また内容も大変充実していたことは、この報告でも分かっていただけの通りです。皆様方のご意見を活かしていける様に我々も委員会活動を継続して、社団法人福岡県獣医師会の活動の方向性を検討します。各方面での新たな取り組みにも耳を傾けていきたいと思っています。

内容を分析してみると、全体的に大変良い反応で、「獣医師会がこんな活動をしている事を知らなかった。」「これからもより以上の連携がとれる事を望んでいます。」「帰ったら、仲間や周りの人に伝えたい。」などの言葉が多数、書き込まれていました。出来ないとおきらめていたことが出来る様に成るのかもしれませんが。その為には、お互いの立場でどう努力していけば良いのかを考えて、話し合う場を広げて行きましょう。

教育委員会からの参加者にもお礼を申し上げます。最前列でお話を聞いておられた義務教育課の参事さんは熱心にメモを取られていたそうですし、担当の指導主事さんは、中川先生の抄録を事前に予習をしてくられ、「大変参考に成った。」と、處委員長に話されていたそうです。

幼少時の「命を感じさせる教育」は、子ども達が大人に成るまでに自分や周りとの関係の中に起きる様々な試練を、真剣に考えることに繋がると考えられます。その経験を積みば積むほど判断力が養われていくことでしょう。ある昆虫学者が、「10歳までに昆虫をまじまじと見る経験をしないと、その後もずっと昆虫を観察することは無いであろう。」と言われた言葉を常に思い出します。小さな命も見方一つ、考え方一つで大きなイメージへと繋がるのです。そしてそんな子ども達が成長して大人になり、自分の子ども達に「どんな命を感じさせる教育」を伝えていける様に成るのでしょうか？こんな「命を感じさせる教育の連鎖」を再構築して行く事が大事だと改めて考えさせられました。「学校飼育動物」がその大きな存在に成れる様に、学校と保護者会（地域も含めて）教育委員会、それに獣医師会も入れていただいで、考えて行ければと思います。

全国的に見ても、教育委員会が「学校飼育動物の管理費」の補助をする様に成った地区の学校では、積極的に飼育環境を見直している様です。現場が飼育頭数を減らす努力をして、適正な飼育環境で快適な飼育活動ができる様なになれば、全ての立場の方が楽になり「余裕のある飼育を子ども達に感じさせる」ことが出来る様に成るのです。当委員会の活動報告の一部を、《全国学校飼育動物獣医師連絡協議会》への情報として、全国の「学校飼育動物」を支援している獣医師会や教育関係者へも報告した事をお知らせします。

（アンケート調査編集担当 K）